



Title	中国語の分離動詞 “V掉” の意味特徴と多義化プロセス
Author(s)	王, 鈺
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2024, 2023, p. 1-16
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97302
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

中国語の分離動詞“V 掉”の意味特徴と多義化プロセス

王 鈺*

キーワード：状態変化、位置変化、力動性

1 はじめに

動作主が対象に力を加えることで分離させるという「分離事象」に関して、日本語と中国語において、以下、同様な意味を表す用例が挙げられる。

- (1) a. ダニやアブラムシの被害のある枝を切るとよい。

(趣味の園芸 (NHK テレビ放送テキスト), 2005, レジャー／趣味)

- b. 把受螨虫和蚜虫蚕食的枝条剪掉比较好¹。

- (2) a. ボトルから栓を抜くというよりも栓からボトルを外すという感じでボトルを左右にひねりながら下方に抜く。

(Yahoo!知恵袋, 2005, 料理、グルメ、レシピ)

- b. 与其从瓶口处拔掉瓶塞，倒不如用一种从瓶塞那端拧掉瓶身的方式，将瓶身左右拧动从下方拔掉。

(1)、(2)のように、分離事象では、「X(分離元)から Y(分離物)を分離させる」というフレームを抽出でき、「X の状態変化」と「Y の位置変化」という 2 つの下位事象が含まれる。日本語では、分離動詞に動作の結果が含意されているため、「切る」、「抜く」などの単純動詞で分離事象を表すことができる。それに対し、中国語では、分離事象のような複合的な事象を表す際に、一般的に、複合動詞“V 掉(diao)”が多く使用されている²。“V 掉”では、前項動詞 V1 は動作動詞であり、主体の動作を表し、後項動詞 V2 “掉”は対象 X と Y それぞれの変化を示す。

* 大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻博士後期課程

¹ (1a、2a)は BCCWJ コーパスから抽出した日本語の用例である。(1b、2b)はそれぞれ、筆者による中国語訳である。

² Chen (2008: 275) は中国語の単純動詞“切(qie)”の用例を挙げ、「Ta1 qie1 le shen2zi (He did cutting at the rope)」は行為の結果「duan4」を含意しないことを述べた。

本研究は、中国語の分離動詞“V 掉”はどのような意味特徴を持つか、また、“V 掉”の意味拡張はどのような多義化プロセスを経たのかを明らかにすることを目的とする。以下では、2 節で先行研究を概観し、その問題点を抽出する。続く 3 節では、本研究の立場と理論的枠組みである力動性を提示した上で、このモデルはどのように分離動詞“V 掉”に応用できるかを提案し、V 掉”における各要素の意味特徴と力的関係を明確にする。4 節では、“V 掉”が分離事象のほかに、どのような意味用法を持つか、これらの意味用法は力的関係におけるどのような関連性をもとに拡張しているかを検討する。最後に 5 節で、結論と今後の課題を述べる。

2 先行研究

2.1 分離動詞と分離事象の特徴に関する先行研究

分離動詞と分離事象に関する先行研究として、王 (2024a) は、分離事象が状態変化と位置変化の 2 つの変化を統合した複合的な事象であると認めた上で、壁塗り交替現象との比較を通して、現代日本語における 2 種類の分離動詞があるという仮説を提案した。すなわち、「切る」などのような「状態変化型分離動詞」と、「抜く」などのような「位置変化型分離動詞」という 2 つが存在し、それぞれが表す分離事象は、時・空間関係や事象統合の論理的関係によって分かれる。具体的には、分離元と分離物の空間的關係に関しては、状態変化型は「物理的一体性」の性質を持つのにに対し、位置変化型は「主観的/心理的一体性」の性質を持つ。2 つの下位変件事象の関係付けに関しては、状態変化型は「緊密的事象隣接性」と「前提関係」で両事象が連動しているのにに対し、位置変化型は「事象同時性」と「因果関係」で関連づけられる。

また、王 (2023、2024b) は、分離事象の背景にある力のフレームに注目し、2 種類の分離動詞の意味構造とその違いを考察した。特に認知言語学において提唱されている力動性モデル (Talmy 2000) に基づき、動詞を軸とした目的語項と主語項との力の対抗関係を示すことで分離動詞の特徴を有効的に説明してきた。一方、日本語における状態変化型と位置変化型という 2 種類の分離事象は、中国語において表現される際に、両方ともに“V 掉”という複合動詞で言語化される。李 (2019) は、日本語の分離動詞と対照しながら“V 掉”の意味用法を整理し、“V 掉”の表す事象には、日本語と同様に状態変化と位置変化という 2 つのパラメーターがあることを指摘した。しかし、“V 掉”は、分離動詞としてどのような意味特徴と意味構造を有するか、状態変化と

位置変化の 2 つの事象はどのようなメカニズムで関係づけられるか、先行研究ではまだ十分に検討されていない。

2.2 “掉”と“V 掉”の意味用法に関する先行研究

従来の“V 掉”に関する先行研究では、“V 掉”の多義性に焦点をあてるものが多く見られる。刘 (2007) は、“V 掉”の意味用法を<客体離脱>、<客体消失>、<事態完成/状態変化>という 3 つに分類した。移動事象の「起点-経路-着点」のスキーマに基づき、移動の起点と着点の有無によって、3 つの意味用法の違いを考察した。その中で、<客体離脱>の表す事象は、起点と着点の両方を持つのに対し、<客体消失>と<事態完成/状態変化>の表す事象は、それぞれ起点と着点の一方のみを持っている。しかし、“V 掉”の表す事象は、典型的な移動事象とは異なる性質を持ち、また、“V 掉”の各意味用法は、すべて移動事象のスキーマに合致するわけではない。このため、これらの意味用法はどのように拡張されるかに関して、疑問が残る。

田 (2015) は、下降移動を表す本動詞“掉”と“落”の意味用法の違いを分析し、以下のような例文を挙げている。

(3) a. 飞机落在机场上，稳稳地停住了。 (田 2015: 125)

(飛行機が空港に着陸して、安定した状態で止まった。)

b. 飞机掉在机场上，爆炸了。 (田 2015: 125)

(飛行機が空港に落ちて、爆発した。)

(3a、3b)では、“掉”と“落”を使用することでどちらも飛行機が空港に向けて下降移動するという事象を表すが、後続可能な文脈が異なる。(3a)では、“落”に含意される力の強さが喚起されていないため、飛行機の位置変化には、空港への状態変化が伴わないという文脈が後続されている。それに対し、(3b)では、“掉”は強い外力・攻撃力を含意し、飛行機の位置変化による、空港への消極的な影響(破壊性)を表すことができる。田 (2015) の分析では、“掉”と“落”は力的要素で意味特徴が異なることが言及されたが、具体的にどのような違いを持つか、このような認識的な違いはどのように生じるかに関しては分析されていない。

一方、丸尾 (2017) は、“V 掉”の抽象的な<完遂義>に焦点を当て、結果補語“掉”

の使用に込められた表現意図を分析した。具体的には、話者が相手に急かされて仕方なく何かをするという圧力などの心理的負担を伝達するために、“V 掉”を用いる傾向があると主張した。

- (4) a. 母亲要求我们今年年底前把婚礼举行掉。

(母は私達に今年の年末より前に結婚式を挙げてしまうよう求めた。)

- b. (...)可是张先生夫妇保有他们家乡的传统思想，以为女孩子到二十岁就老了，过二十岁还没嫁掉，只能进古物陈列所供人凭吊了。

(钱钟书『围城』41)

(しかし、張さん夫妻には自分たちの故郷の伝統的な思想があり、女性に20歳になるともう老けたと見なされ、20歳を過ぎても嫁いでいないと、古物陳列所に入れて人に弔われるしかないと思っている。)

- c. ??他虽然是三年级的学生，但是他已经学掉了四年级的内容。

(丸尾 2017: 51)

(彼は3年生だが、もう4年生の内容を学んでしまった。)

(4a、b)では、“举行婚礼(結婚式を挙げる)”、“嫁(嫁ぐ)”は動作主にとって心理的負担がある行為であり、V2 “掉”の使用により、話者は動作主の心理的負担を意識していることが反映されている。“掉”を意味が類似した完了助詞“了”、“完”で言い換えると、動作主による心理的負担が表出できない。また、(4c)では、動作主が積極的に学ぶ意図が読み取れるため、心理的負担が喚起されていない。この場合、“掉”の使用が許されないと考えられる。“V 掉”に含意される心理的負担という意味特徴はどのように生じるか、このような意味特徴は<完遂義>以外の意味用法の中で捉えられるかは明らかにされていない。

以上により、先行研究は、“V 掉”の持つ豊かな意味用法と、他の下降移動を表す移動動詞や、完了用法を持つ補助動詞との異なる特徴を指摘した。しかし、分離動詞“V 掉”はどのような認識メカニズムのもとで意味が拡張されてきたか、この認識メカニズムを基盤とした“V 掉”はどのような意味構造を持つかに関して、統一した原理で体系的に説明する必要があると考えられる。

3 力動性モデルと分離動詞 “V 掉” への応用

3.1 Talmy の力動性モデルと本研究の立場

本研究は、日本語の分離動詞「切る」、「抜く」などと同様に、中国語の分離動詞 “V 掉” の表す事象において力的関係が存在することを主張する。このため、王 (2023、2024b) と同じ立場を踏まえ、Talmy (2000) の力動性モデルを採用し、“V 掉” の意味構造と多義化プロセスを分析する。以下、力動性という理論的枠組みを説明する。

力動性とは、力という観点から見た個体の相互作用を示したものである。力構造において、2 つの対立した力実体のバランスによって相互作用の結果状態が異なる。本来的に活動か静止の傾向をもつ存在は主動体(agonist)、主動体に対抗する力を加える存在は対抗体(antagonist)と呼ばれる。図 1 は力動性モデルを図示したものである。

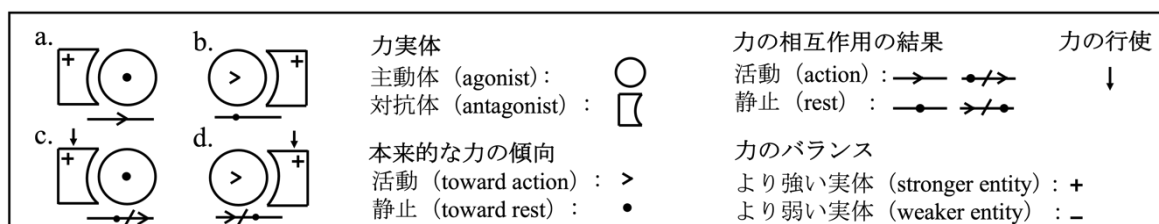


図 1 Talmy (2000) による力動性モデルの図式

- (5) a. The fan kept the air moving.
 b. The brace kept the logs from rolling down.
 c. The piston made the oil flow from the tank.
 d. The shutoff valve stopped the gas from flowing out.

動作と動作の結果の生じる時間によって、力動性モデルは、keep 型(a、b)と make 型(c、d)という 2 つの基本的なタイプに分けられる。図 1 の a、b のように、(5a、b)では、主動体、すなわち目的語項(空気、丸太)は静止傾向にあったが、それぞれの対抗体、すなわち主語項(扇風機、留め金)から継続的に強い力が加わることで、初期傾向と逆の傾向性(活動傾向)が保持される。このような keep 型の事象は、使役と使役の結果が同時に生じており、拡張使役(extent causation)と呼ばれる。一方、c、d のように、(5c、5d)では、対抗体(ピストン、遮断バルブ)から各主動体(油、ガソリン)に力が加わ

り、力が行使される間に主動体の状態に変化が生じる。make 型の事象は使役行為をきっかけとした変化のプロセスが生じるため、開始時使役(onset causation)と呼ばれる。

また、Iwata (2017)、岩田 (2023) は、Talmy の力動性モデルは主に力の相互作用の結果である状態変化のみに注目するものであり、位置変化の表示に関して検討する余地があることを指摘した。本研究の対象である“V 掉”は、状態変化事象のほかに、位置変化事象も同時に表すことができる。このため、本研究は、Talmy の力動性モデルを修正し、力の相互作用の結果として生じる位置変化もモデルの図式に表示する。本研究による改訂版の力動性モデルを図 2 のように示す。

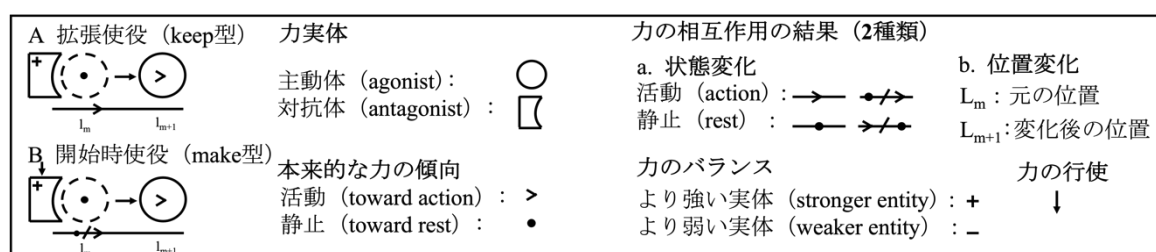


図 2 本研究による改訂版の力動性モデルの図式

3.2 分離動詞“V 掉”における 2 種類の力動性モデル

刘 (2007: 134) は、本動詞“掉”による使役的力を自然力(引力、気候変化など)として捉えた上で、その意味を〔+自然力〕〔+空間的位置変化〕〔+決定的方向づけ〕と定義した。すなわち、本動詞“掉”に含意される力は単一方向的な力であると想定できる。一方、本研究は、複合動詞“V 掉”がもたらす変化に関わる力的関係は、本動詞“掉”に関わる力と異なり、単一的な力ではなく、相互に作用するような 2 つの力であるとする。以下、力動性モデルに基づき、まず、物理的な分離事象を表す“V 掉”における各要素の意味特徴と力的関係を説明する。

- (6) a. 鎌で雑草を刈る。/はさみで髪を切る。/ナイフでリンゴの皮を剥く。
 b. 用鎌刀割掉杂草。/用剪刀剪掉头发。/用水果刀削掉苹果皮。
- (7) a. コルク抜きでボトルから栓を抜く。/ブラッシュで汚れを落とす。
 /手でメガネをはずす。
 b. 用开瓶器拔掉瓶塞。/用刷子擦掉污垢。/用手摘掉眼镜。

上記の(6a、7a)はどちらも物理的な分離事象を表すが、王 (2024a) によると、分離元と分離物の空間的關係および事象の關係付けに違いが見られるため、それぞれが表す分離事象のタイプが異なると考えられる。(6a)は分離元の状態変化が焦点化される状態変化型分離事象であるのに対し、(7a)は分離物の位置変化が焦点化される位置変化型分離事象を表す。主事象と焦点化されたものが一致しないため、それぞれの事象に含意される力的關係と事象連鎖も異なると捉えられる。一方、(6b、7b)のように、中国語において、この2種類の分離事象は、両方ともに“V 掉”として言語化される。このため、“V 掉”の意味構造には、2種類の力動性モデルが存在すると想定できる。

1つ目は、分離元の状態変化が主事象になることを示す力動性モデルであり、「状態変化型分離事象モデル」と呼ぶこととする。状態変化型分離事象モデルでは、V1 には、日本語の状態変化型分離動詞と意味的に類似する中国語の動作動詞“割”、“剪”、“削”などがある。動作の行使によって各変化が生じるため、このモデルは、make 型の力動性タイプに当てはまる。目的語項である分離物は主動体として、本来的に分離元につながっている一続きのものであり、分離物と分離元は「物理的一体性」を持つ「部分/全体」の關係にある。この「物理的一体性」は分離物の内在的傾向性・力として捉えられ、分離物の初期傾向は静止状態にある。主語項である動作主からの強い力の行使は、分離物と分離元の「物理的一体性」を分断・破壊するため、分離元が静止状態から活動状態に変化し、分離物の位置変化も生じるという連続的な事象連鎖が想定できる。以下、図3で状態変化型分離事象を表す“V 掉”の力動性図式を示す。

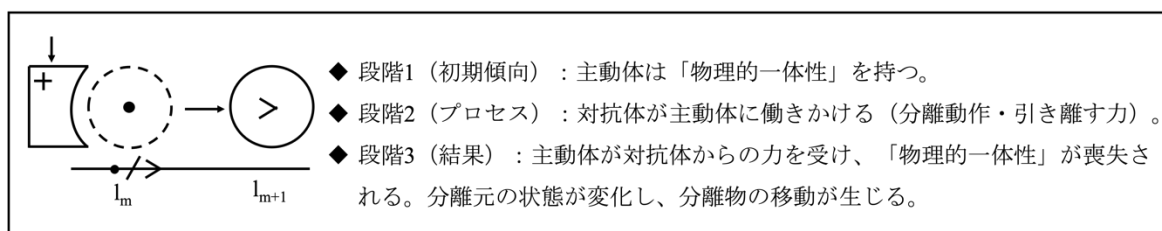


図3 “V 掉” の状態変化型分離事象の力動性図式

もう1つのモデルは、分離物の位置変化が主事象になることを示す力動性モデルである。これを「位置変化型分離事象モデル」と呼ぶこととする。位置変化型分離事象モデルでは、日本語の位置変化型分離動詞と意味的に対応する中国語の動作動詞“拔”、“擦”、“摘”などがV1になる。

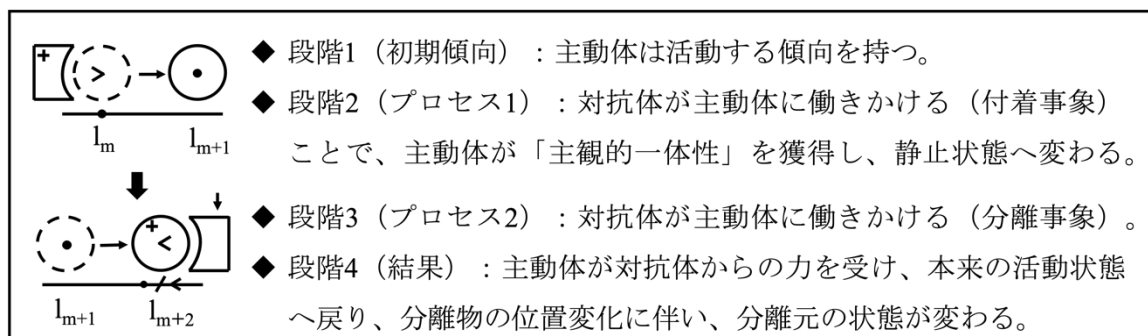


図4 “V 掉” の位置変化型分離事象の力動性図式

図4のように、このモデルは2つの部分に分かれる。図式の上側は分離動作を行使する前の背景的な事象である付着事象を示す。分離物と分離元の初期の位置関係を考えると、分離物は本来的に分離元の一部ではなく、状態変化型分離事象モデルにおける「物理的一体性」が存在しない。このため、主動体である分離物の初期傾向は活動状態にあると捉えられる。動作主は、ある機能・形状・属性を実現するため、分離物を分離元に付着・固定させる。この対抗体である動作主による力は、分離物に内在する活動傾向の力より強いため、分離物の活動傾向を阻止することで、分離物は静止傾向に変わるという事象連鎖が形成される。また、この背景的な事象連鎖では、動作の行使によって、使役と使役の結果が同時に生じるため、これは図2の **keep** 型の力動性モデルに当たる。力の相互作用のもとで、分離物と分離元の「心理的/主観的一体性³」の状態が継続されている。一方、図式の下側は、主要な分離事象の連鎖を示す。動作主は「心理的/主観的一体性」という内在的傾向性・力よりも更なる強い力を行使し、分離物を分離元から取り除いた結果、分離物の位置変化が生じて、本来の活動傾向に戻る。また、分離物の移動に伴い、分離元も活動状態に変わるという状態変化が捉えられる。この場合、動作主による力の行使は変化プロセスのきっかけとなり、下側の図式における事象連鎖は、図2の **make** 型の力動性モデルに当たる。この2つのモデルの組み合わせによって、位置変化型分離事象モデルが形成される。

以上の2種類のモデルは、どちらも動詞“V 掉”が1つの軸として、内在的傾向性

³ 「心理的/主観的一体性」とは、物理的密着度が高い「物理的一体性」に対する心理的密着度が高い空間的概念である。分離元と分離物は本来的に一体ではなく、空間(e.g. 水と水田)、形状(e.g. 指輪と指)、機能(e.g. プラグとコンセント)の上で何らかのつながりを持ち、認識主体が心理的にこの2つのものが一体化しているように捉えている。

を持つ主動体(AGO)である分離物・分離元と、対立した力を行使する対抗体(ANT)である動作主における力的関係を示すことで共通している。次に、“V 掉”の表す他の意味用法において、どのような力的関係が示されるかを考察し、力的関係の関連性と有契性を探り、“V 掉”の意味構造を考察する。

4 “V 掉”の多義化プロセス

4.1 “V 掉”の意味パターンとその事象類型

丸尾 (2017: 48) は先行研究の各分類に基づき、“V 掉”の意味用法を(8)のように 3 つのパターンにまとめた。

- (8) i. 移動(“位移/离开/脱离”)
 ii. 結果(“去除/消失”)
 iii. 完了(“动作过程的完成/事件完成”) (丸尾 2017: 48)

丸尾の分類は、動詞事象に対する捉え方の違いを反映し、“V 掉”の各意味用法はどのような要素が前景化されるかで異なることを示す。しかし、対象の移動と事象の完了は両方ともに行為の結果として捉えられることができ、それぞれの結果の境界線が明確ではないため、結果補語である“掉”の表す各結果には具体的にどのような違いがあるかに関して検討する余地がある。このため、本研究は、状態変化と位置変化を統合した分離事象を中核的意味パターンとして位置付けた上で、状態変化と位置変化のどちらが前景化されるかによって、“V 掉”の各意味用法を以下の 4 つに分類した。

意味パターン		パターン 1 【分離事象型】	パターン 2 【単純移動型】	パターン 3 【消滅事象型】	パターン 4 【完遂極度型】
事象 類型	位置変化	○	○	×	×
	状態変化	○	×	○	○
語例		摘掉(外す) 撕掉(ちぎる) 剪掉(切る) 剥掉(はがす)	跑掉(逃げる) 溜掉(こっそり 抜け出す) 飞掉(飛んでいく)	吃掉 (食べきる) 烧掉 (焼き尽くす)	卖掉 (売ってしまう) 忘掉 (忘れてしまう)
置き換え可能な 類義語		方向/結果補語 「下」	結果補語 「走」	結果補語 「完」	完了助詞 「了」

表 1 複合動詞“V 掉”の 4 つの意味パターン

表 1 が示すように、この 4 つの意味パターンの中で、意味パターン 1 の【分離事象型】は、日本語の分離動詞の意味用法と一致しているが、V1 と分離物・分離元の特徴によって、日本語の「切る」などの状態変化型分離動詞に対応するものと「抜く」などの位置変化型分離動詞に対応するものがある。それに対し、意味パターン 2 の【単純移動型】、意味パターン 3 の【消滅事象型】、意味パターン 4 の【完遂極度型】は、位置変化と状態変化のどちらかの一方のみが前景化されるものである。また、意味パターン 2 と意味パターン 3 は、意味パターン 1 と同様に、V2 “掉” が実質的意味を継承・保持しており、結果補語として、動作動詞 V1 によってもたらされる各種類の結果を示す。それに対し、意味パターン 4 では、V2 “掉” は本来的な実質的意味を喪失し、文法的なアスペクト的意味への拡張によって、V1 の表す行為の完遂または状態の実現を表す。次節では、力動性モデルに基づき、各意味用法の特徴と力的関係を記述する。

4.2 力動性モデルに基づく拡張的意味パターンの特徴

まず、位置変化のみを表す意味パターン 2 の【単純移動型】を考察する。

- (9) a. 如果你早告诉我，我就不会让他跑掉。 (莫言『四十一炮』)
 (早めに教えてくれれば、彼を逃さなかったのに。)
- b. 犯罪分子很难在他眼皮底下溜掉。 (『人民日报』1978)
 (犯罪者が彼の目をすり抜けるのは難しい。)

(9)のように、他の 3 つの意味パターンと異なり、パターン 2 の“V 掉”は自動詞であり、動作の対象が存在せず、動作主の位置変化が前景化されるものである。このため、パターン 2 では、主動体は目的語項ではなく、位置変化の動作主である。また、このパターンでは、V1 には“逃(逃げる)”、“溜(抜け出す)”などのような、ある場所の内から外へ離れるという意味を表す移動動詞が多く見られる。これらの動詞は“掉”と結合すると、移動のプロセスの中で何らかの妨害が存在することを含意する。例えば、(9a、9b)では、主動体“他(彼)”、“犯罪分子(犯罪者)”の移動を妨げる対象である“我(私)”、“他(彼)”が存在し、これらの妨害を与えるものは対抗体として捉えられる。“逃掉(逃げる)”、“溜掉(こっそり抜け出す)”は、類義語“逃走”、“溜走”と比較

すると、移動の困難さという意味要素が際立つ。また、コーパスの用例を観察すると、“偷偷地(こっそり)”、“伺机(チャンスを掴んで)”などの何らかの手段で困難を克服する意味を表す副詞と共起しやすい傾向も見られる。

このため、力動性に基づくと、意味パターン 2 の表す事象は主に「位置変化型分離事象モデル」を継承し拡張したものであると考えられる。主動体は本来的に動きへ向かう傾向性を持ち、妨害などの対抗体による強い力によって、自由に移動できない状態が継続され、ある段階において静止傾向にとどまる。その後、主動体が妨害を取り除くまたは対抗体による力の強さが緩和される場合、主動体が移動できる傾向に戻る。また、意味パターン 2 は位置変化型分離事象モデルを継承したものであるが、主動体の位置変化が前景化し、移動主体と移動場所の状態変化はどちらも捉えられにくい。このため、意味パターン 2 の力動性図式を図 5 のように記述する。

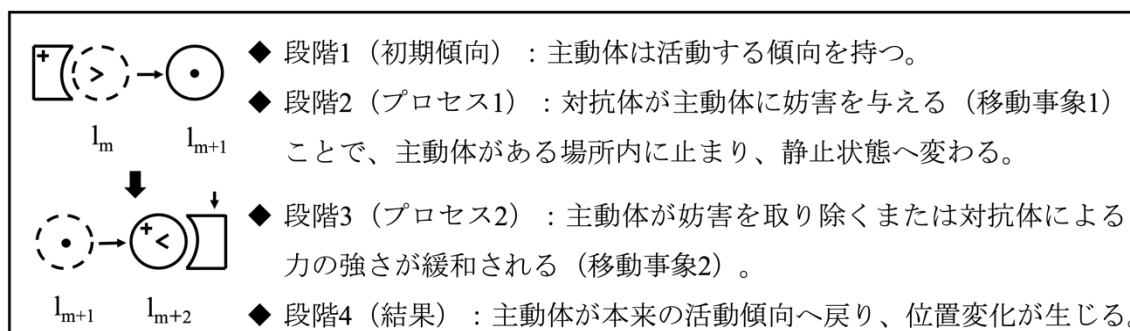


図 5 意味パターン 2 の【単純移動型】の力動性図式

次に、意味パターン 3 の【消滅事象型】を考察する。

(10) a. 花了几代人心血建造的塔房就这样一把火烧掉了。

(何世代もかけて建てられたタワーは、たった一度の火事で全焼して
しまった。)

b. 他慢慢地，一口一口地喝掉了碗里的汤药。

(彼はゆっくりと、一口ずつお碗の中の煎じ薬を飲んでしまった。)

意味パターン 3 では、“V 掉”は他動詞であり、動作主の行為による対象の状態変化の結果が前景化されることで、パターン 1 における状態変化型分離事象モデルと共

通しているが、位置変件事象が捉えられにくい。(10a)のように、主動体“塔房(タワー)”は一体的なものとして存在し、本来的に安定した静止傾向にあるが、動作主による行為“焼(焼く)”の強い力によって、主動体が静止傾向を喪失し、一体的なものである“塔房”が形状の変化へ向かうという活動傾向に変わり、最後に消滅状態に達する。また、この事象連鎖では、“塔房”の位置変化が捉えられない。(10b)では、主動体“汤药(煎じ薬)”は一定の量を保持し、安定した静止傾向にあるが、動作主による行為“喝(飲む)”の力によって、主動体の量が減少し、活動傾向になり、行為の進行によって最後に消滅状態に至る。(10a)と同様に、位置変化が前景化せず、“汤药”の消失という状態変化が表現される。以上により、意味パターン 3 は状態変化型分離事象モデルを継承したものであるが、状態変件事象のみを表す。このため、その力動性図式を図 6 のように記述する。

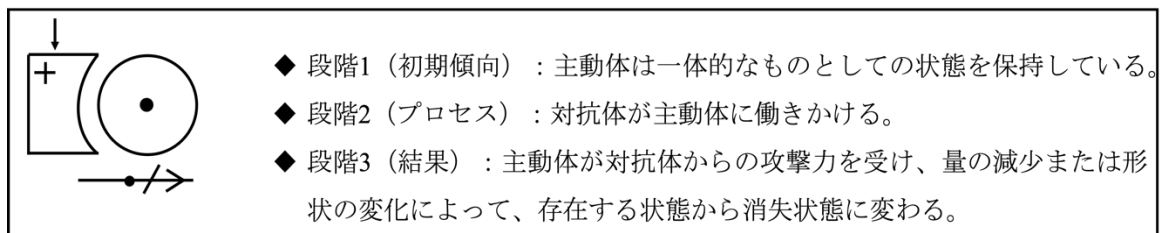


図 6 意味パターン 3 の【消滅事象型】の力動性図式

最後に、意味パターン 4 の【完遂極度型】を考察する。

(11) a. 抽了 16 年烟的王锡田硬是咬着牙把烟戒掉了。(『人民日报 1993』)

(16 年間喫煙していた王锡田は歯を食いしばってやめてしまった。)

b. 他答应母亲 2006 年一定要把房子买掉，把婚结掉，把孩子生掉。

(彼は母親の求めに応じて、2006 年に必ず部屋の購入、結婚、出産をしてしまうことにした。)

(12) ??他虽然是三年级的学生，但是他已经学掉了四年级的内容。

((4c)再掲)

(彼は 3 年生だが、もう 4 年生の内容を学んでしまった。)

(11)のように、意味パターン 4 では、補助動詞“掉”は動作主体の行為による結果

を表すというよりも、アスペクトに関わる形式として、行為・事態の完遂を表現する。また、このパターンの“V 掉”は、日本語のテ系補助動詞「てしまう」と類似した意味機能を持ち、アスペクト的意味を表す際に、発話主体の心的態度を伝達することができる。しかし、「てしまう」と異なり、“掉”と結合する V1 の表す行為・事態では、“忘(忘れる)”、“戒(やめる)”のような負の感情を含意するものに偏る傾向が見られる。(11a)では、話者が V1 の「禁煙」という事態を期待していないため、その事態の達成は主動体として、本来的に静止する傾向にあると捉えられる。外部の強力や時間の推移などの対抗体による力によって、事態が最後に達成・実現し、主動体の状態が変わるという事象連鎖が想定できる。(11b)では、“买房子(部屋の購入)”、“結婚”、“生孩子(出産)”が正の感情を含意する出来事であるが、“掉”との結合が容認される。この場合、話者にはこれらの事態が動作主にとって心理的負担と抵抗性が感じられるものであり、同様に望ましくないものであると認識されている。このため、主動体である事態の達成は初期的な静止傾向を持つ。「母親の求め」という外部のストレスである対抗体の力によって、無理やり事態の達成を遂行することで、主動体が静止傾向から活動傾向に変わり、最後に事態が終結点に到達する。以上により、意味パターン 4 における力的関係は、他の 3 つの意味パターンと異なり、話者の心理的側面が際立ち、事象達成と事象達成への心理的抵抗性という対立関係が捉えられる。それに対し、(12)のように、動作主が積極的に学習という事態の遂行に参加する場合、話者にとっては動作主が事態の達成を期待しているという心理的力と、動作主が事態の達成を遂行するという外部の力は、同方向性の力である。これは、“V 掉”に含意される対立した力的関係と矛盾するため、“V 掉”の使用が容認されない。

一方、意味パターン 4 では、“掉”は形容詞と結合することも可能である。この場合、形容詞の表す状態が極度に到達することを表す。

(13) a. 蛋糕坏掉了。/叶子黄掉了。/菜冷掉了。/衣服湿掉了。

(ケーキが変質してしまった。/葉が黄色くなってしまった。/料理が冷めてしまった。/服が濡れてしまった。)

b.*蛋糕好掉了。/*叶子绿掉了。/*菜热掉了。/?衣服干掉了。

(*ケーキが美味しくなってしまった。/*葉が緑色になってしまった。
/*料理が熱くなってしまった。/?服が乾いてしまった。)

(13)のように、行為・事態の完遂を表す場合と同様に、“掉”と結合できる形容詞は負の感情を含意するものとなる傾向が見られる。状態の実現とその実現への話者による心理的妨害という2つの対立した力の相互作用の結果として、主動体が活動傾向に変わり、状態が限界・終結点に到達する。また、意味パターン4では、主動体による力は心理的領域における力であるため、意味パターン3と区別し、破線の円形で主動体を表示する。この意味パターン4の力動性図式は図7の通り記述できる。

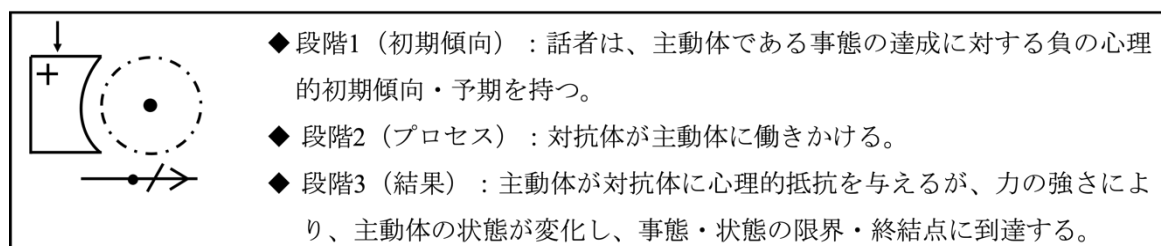


図7 意味パターン4の【完遂極度型】の力動性図式

4.3 “V 掉”の意味構造の構築

本研究は、力動性モデルに基づく“V 掉”の意味構造を図8のように構築し、4つの意味パターンの関連性を明確にする。

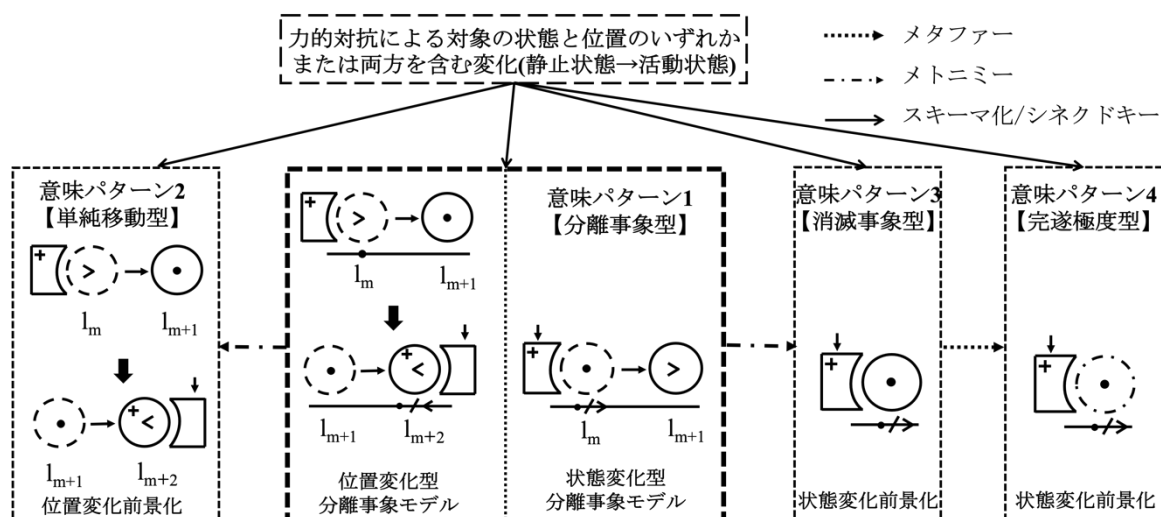


図8 力動性モデルに基づく“V 掉”の意味構造

本研究は、意味パターン1の【分離事象型】を意味構造の中核的カテゴリーに据え

る上で、意味パターン 2 の【単純移動型】と意味パターン 3 の【消滅事象型】は意味パターン 1 における位置変化型分離事象モデルと状態変化型分離事象モデルをそれぞれ継承し拡張したものであると捉えている。パターン 2 とパターン 3 は両方ともに、分離事象という複合的な事象における 1 つの側面のみを含意するため、パターン 1 と「部分-全体」の関係に当てはまり、メトニミーによる拡張であると考えられる。

一方、意味パターン 4 の【完遂極度型】は、意味パターン 3 の【消滅事象型】と同様に状態変化事象のみを含むが、パターン 1 からの直接的な意味拡張のプロセスが捉えにくく、意味パターン 3 から拡張されたものであると考えられる。意味パターン 3 は物理的領域における力の対抗関係の結果として生じる状態変化であり、分量の減少や形状の変化などのような物理的な対象の消失・消滅を表す。それに対し、意味パターン 4 は心理的領域における力の対抗による状態変化として、事態の完遂を表すとともに、“忘掉(忘れてしまう)”という記憶の喪失、“戒掉(やめてしまう)”という習慣の喪失などのような抽象的な対象の消失を伴う場合も想定できる。このため、物理的領域から心理的領域へのメタファーによる意味拡張により、パターン 3 からパターン 4 に意味が広がると考えられる。

また、以上の“V 掉”の 4 つの意味パターンからも、主動体と対抗体という 2 つの対立した力実体の相互作用によって、状態変化か位置変化のいずれかまたは両方の変化が生じるという共通した事象が抽出できる。このため、本研究は、“V 掉”の各意味パターンの共通したスーパー・スキーマを「力的対抗による対象の状態と位置のいずれかまたは両方を含む変化（静止状態→活動状態）」と規定する。

5 まとめと今後の課題

本研究は力動性モデルに基づき、中国語の分離動詞“V 掉”の表す意味特徴を考察し、力を加えることで状態変化と位置変化を引き起こすという分離事象では、力的関係が存在することを明確にした。その上で、“V 掉”を 4 つの意味パターンに分類し、力動性モデルで各意味パターンの特徴を描き、物理的な分離事象から抽象的な完遂用法への多義化プロセスを探り、力的関係における関連性に基づく“V 掉”の意味構造を構築した。本研究の分析により、中国語の分離動詞“V 掉”は、日本語の分離動詞「V 切る」、「V 抜く」などと同様に、事態の完遂・状態の実現というアスペクト的用法への拡張傾向が見られる。今後の課題として、各言語における分離動詞の共通性を

探ることで、分離動詞の位置づけをさらに明確にし、力的認知が含意される分離動詞を「力学動詞⁴」という新たな動詞クラスとして提案する可能性について検討する。

参考文献

Chen, Jidong. (2007). ‘He cut-break the rope’: Encoding and categorizing cutting and breaking events in Mandarin. *Cognitive Linguistics* 18(2), 273-285.

Iwata, Seizi. (2017). State-maintaining causatives: A close kin to resultatives. *Language Sciences* 64, 103-129.

岩田彩志 (2023) 「Way 表現と force dynamics」『日本認知言語学会第 24 回全国大会予稿集』 74-77.

李響 (2019) 「離脱動詞のタイプと移動動詞、状態変化動詞との関係—「とれる、はずれる、むける」などを中心に—」『KLS Selected papers』 1, 61-72.

刘焱 (2007) 「“V 掉” 的语义类型与 “掉” 的虚化」『中国语文』 2, 133-143.

丸尾誠 (2017) 「中国語の結果補語 “掉” の用法について—完遂義を中心に—」『言語文化論集』 38(2), 47-60.

仲本康一郎 (1998) 「攻撃力と抵抗力を表わす形容詞—主体性という概念をめぐって—」『言語科学論集』 4, 69-81.

Talmy, Leonard. (2000). *Toward a Cognitive Semantics Vol.1: Concept Structuring Systems*. Cambridge, MA: MIT Press.

田碩 (2015) 「移動性同義動詞 “落” “掉” の含义区别」『黑龙江教育学院学报』 34(10), 124-125.

王鈺 (2023) 「現代日本語の分離動詞における 2 種類の一体性について」『認知・機能言語学研究』 8, 1-10.

王鈺 (2024a) 「現代日本語における 2 種類の分離動詞に関する仮説—離脱型壁塗り交替動詞との比較を通して—」『KLS Selected Papers』 6, 61-78.

王鈺 (2024b) 「力動性モデルに基づく分断・破壊事象を表す動詞「切る」の多義構造研究」『言語文化学』 33, 117-133.

⁴ 仲本 (1998) は力動性で形容詞を分析した際に、意味論的に力学的認知に基づいて規定される形容詞を「力学形容詞」と呼ぶ。今後の研究では、力を加えることで対象の変化を起こす分離動詞を「力学動詞」として位置付ける可能性について検討したいと考える。